

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2017年10月1日 169号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第17回国際協力青年奉仕隊



フェルテ・オリンポ市の中高生と
青年奉仕隊員たち（8月28日）



市内各所を歩いてゴミを拾い集める。



公共施設を訪ねてゴミ箱を設置。



ドラム缶を半切りにした大型ゴミ箱。

人は魂の器、ゴミはゴミ箱に！
オリンポで共同クリーンキャンペーン

第十七回国際協力青年奉仕隊は、男子十一名（うちチリからの参加者一名）と女子六名の混成とした若者たち。八月二十二日に成田空港を立ち、南米パンタナール地域でクリーンキャンペーン、植樹などの奉仕活動と体験学習を行い、九月九日に元気よく帰国しました。またアスンシオン空港で別れた三名の男子隊員は、中期ボランティアとしてレダ基地で活動しています。

二十三日 パラグアイの首都アスンシオンに到着。空港に来てくれた中井氏の姿が嬉しい。南半球は冬だと思ってきたら、意外にも空気が暑い。しかし湿度は低かった。

二十四日 チャーターしたバスに、スーツケース、プレゼントの衣料、生鮮野菜等を積み込む。約七時間かけて、メノール教徒の移民が理想郷を目指してつくった町、ローマ・プラタに移動。佐野氏の解説と案内で、開拓史博物館を訪れ、信仰・正直・勤勉を貫いて、あらゆる逆境を克服してきた歴史を学ぶ。彼らは私たちの先駆者と言える。

二十五日 未舗装の国道を、パラグアイ川沿岸の町オリンポへと移動。モウモウたる砂塵は車内にも充満し、マスクと忍耐力とが必須。ひた走ること約八時間でオリンポの研修所に到着。共同でキャンペーンを行うオリンポ市のコレヒオ（中・高校）の校長宅、および市会議長宅で、打ち合わせ。町も山も満開の桃色ラパチョが美しい。

二十六日 市庁を表敬訪問。議長の歓迎を受ける。次いでコレヒオへ。土曜日で学校は休みだが、数十名の有志生徒が集まり、奉仕隊と対面。隊員は一人ずつ自己紹介したが、皆明るく、堂々としている。校長がクリーンキャンペーンについて生徒らに訓示。奉仕隊から「カンパニー・オリンポ・リンピア（清潔なオリンポ）」とロゴの入ったTシャツを学校に寄贈した。（次面に続く）



ミサ後、聖堂正面にて、司祭と奉仕隊員たち。8月27日



オリンポのカトリック教会聖堂で壇上に立つ奉仕隊員たち。



オリンポの丘より望むパラグアイ川。



オリンポ研修所の室内を塗装する準備。



オリンポ研修所で毎日楽しく食事。

(一面より続く) また、当会が準備したドラム缶のゴミ箱五十個と、市販のゴミ箱五十個とに「きれいな町! きれいな魂!」とデザインされたシールを皆の手で貼った。その後、市の中心の公園広場に移動し、校長を中心に十二個の鉄製ゴミ置きスタンドを立てる作業をした。これを終えた後、奉仕隊は午後から昨年の国際チームが植えたニーム苗木の欠株を補う作業に汗を流した。

二十七日 日曜日早朝、カトリック教会のミサに参加。市民たちは、奉仕隊のオリンポ来訪について、すでに何日も前からラジオ放送で繰り返し聞き、この日を楽しみにしていたとのこと。ミサの最後に奉仕隊が壇上に招かれ、会衆に紹介された。そして一隊員がリコーダーを演奏すると、聖堂内に美しく響いて会衆を魅了した。次に奉仕隊が「エレストゥ」という、有名なスペイン語の歌を合唱すると、多くの会衆が声を合わせて歌った。この時の感動は、多くの市民から後々聞かされることになる。ミサが終わると、司祭と奉仕隊は聖堂の正面石段に並び立ち、歴史的な記念撮影をした。

研修所に戻ると、クエジャール市長夫妻が来られた。「私たちには、何はなくとも大自然と水が豊富にあります。」奉仕隊員のような若者たちがもつとオリンポに来てくれて、町を発展させて欲しいというのだ。この後、隊員たちはオリンポ家庭教会(レイナルド教会長)の日曜礼拝に参加した。

午後はオリンポ研修所の修復作業。レダプロジェクトの提唱者、文総裁夫妻が使っていた寝室と、居間兼食堂の内壁を塗装するという、願ってもない任務を与えられた。サンドペーパーで壁の汚れを落として、白い水性ペンキを塗る。嬉々として作業する若者たち。ここは小規模ながら、永く、いつまでも守って行きたい貴重な家である。

夕方、地元の青年たちと、オリンポの丘に登る。隊員たちは、地平線まで続く広大

なパンタナール湿原を肉眼で見た。悠久なるパラグアイ川の蛇行。かの美しく雄大な空間は、十分に彼らの心を引きつけた。

二十八日 七時の始業に合わせてコレヒオに行く。校庭に整列した教師、生徒たちが国歌を斉唱し、国旗を掲揚。これが普通の朝礼なのだ。きょうの授業は、奉仕隊と共にクリーンキャンペーンを行うこと。生徒らと奉仕隊員らとの混合チームを五班に編成し、それぞれ地域を分担してドラム缶ゴミ箱を設置し、公的機関を訪れてキャンペーンの趣旨を話し、市販品のゴミ箱を置かせてもらう。第一班に同行すると、小学校、女子修道院、税務局、警察署、病院、裁判所、等々を順次訪れて行く。狭い町なので、移動時間はわずかだ。キャンペーン隊は、どこへ行っても笑顔で歓迎された。当然のように思われるかもしれないが、大きなゴミ箱を人の家に入れるということは、そう単純な話ではない。ラジオ放送のおかげもあるが、それ自体がこの十八年間で、「隣人を愛しなさい」と言う教えを地道に守り、育んで来た土壌に芽生えた希望ではないか。一巡して学校に戻って来た混合部隊は、奉仕隊員たちと大縄跳び、武道、フリスビーなどをして、十時頃まで楽しく過ごした。そして大きなポリ袋を一枚ずつ持って、ゴミ拾いに出発した。県庁前通りを除き、ゴミは町中の至る所に落ちていた。生徒たちは、手づかみでゴミを拾い上げ、次々とゴミ袋に入れて行く。コレヒオの生徒たちが比較的裕福な家庭の子女であることを考えると、見ていて爽快な気分になる。課外授業ということではあるが、おしゃべりしながら、とても楽しそうだった。

午後、奉仕隊は隣接する小学校を訪れ、日本の救済衣料センターから寄贈していただいた衣料品のうち、お揃いのシンプルなTシャツを生徒代表に手渡した。そして、先住民子女の小学校に行き、(三面に続く)



第7回奉仕隊が植えたニーム並木が大きく育った。



欠株の補充を完了。苗が育って永く生きるように「ビバー！」と叫ぶ。



インディヘナの小学校にて。



でかボールは柔らかくて、ゆっくりと飛ぶ。



子供の目線で折り紙を教える。



オリンポからレダへ3時間の船旅。

の迎えのボートに乗った。船着き場には、親しくなった生徒らが見送りに来た。午後一時、お互いに笑顔で手を振りながらの別れとなったが、また必ず会えるような気もした。



男子は1-4で負け。女子は0-0。

て来た学校チームは強かったが、双方全力で激突する姿が勝敗を越えて素晴らしかった。昼食後すぐにレダからの迎えのボートに乗った。船着き場には、親しくなった生徒らが見送りに来た。午後一時、お互いに笑顔で手を振りながらの別れとなったが、また必ず会えるような気もした。



コレヒオの講堂で歌とダンス。大受けした。

（二面より続く）たくさんの単品衣料を子供たちに分配してもらおうべく、教師たちに手渡した。続いて子供たちとの交流の時間。でかボール遊び、大縄跳び、シャボン玉、折り紙、フリスビー、肩車、変顔メイク等々、全力で遊びまくった。別の時間が来ると、ハグ攻め、握手攻め。短い訪問だったが、泣きそうな男の子が忘れられない。二十九日 オリンポでの最終日。まずニームの街路樹の植え替えを手際よく完了。そしてコレヒオに行き、講堂で教師と生徒たちを前に、歌と踊りを披露し、大喝采を浴びる。学校側も優雅なパラグアイの伝統舞踊を見せてくれ、互いに感動。最後は、サッカーの交流試合だ。男女別に、学校チームと奉仕隊チームが対戦。優れた選手を揃えて来た学校チームは強かったが、双方全力で激突する姿が勝敗を越えて素晴らしかった。昼食後すぐにレダからの迎えのボートに乗った。船着き場には、親しくなった生徒らが見送りに来た。午後一時、お互いに笑顔で手を振りながらの別れとなったが、また必ず会えるような気もした。

パラグアイ川を遡ること約三時間、日陽園レダ基地に一行が到着。中田所長をはじめとするレダ基地スタッフの出迎えを受ける。上陸した若者たちは、小高い堤頂に立ち、夢に見たレダ基地を目にした。

三十日以降 レダでの体験学習、アスンシオンの教会訪問、ラパス日系人入植地訪問、世界遺産トリニダおよびイグアスの滝見学、日本学校訪問と続きますが、本紙次号で報告いたします。また奉仕隊を迎えるにあたって、佐野氏、中井夫妻、中田所長と伊達氏ほかレダ基地のスタッフの尽力が極めて大きかったことを特筆したいと思います。（小田記）

奉仕隊員の感想文（オリンポでの歩み）

●オリンポでの歩みが自分にとっては印象的で、ただただこの地を愛するために、この人を愛するために、という思いを持ちながら汗を流す。それが純粹に気持ちよくて、やっぱり為にいけるって素晴らしいことだなと感じた。他方、自然はとにかくすごかった。動物がいることで生まれる躍動感。何でもない道に馬がいること。きれいな空に鳥の飛んでいる姿。自然の中にある家。自然と共存しているものは、本当に心を満たしてくれていると思った。（27歳・男）

●日本では薄れつつあるような大切なもの。人と人とのつながり。この町にはそれがありません。それがとても愛おしくて、この町がとても好きになりました。しかし、この地が日本のように発展し、テクノロジーが多く導入されるようになれば、それが無くなってしまうんじゃないかとも思いました。日本と違う文化を肌で感じ、とても強いインパクトを受けました。（20歳・男）

●自分が日本で生活しているときは、なかなか神様を感じるのには難しいですが、パラグアイで生活すると、植物一つを見ても、神様が私たちが人間を愛していると分かります。地球の反対側で生活することで、視野が広がり、物事をより広く考えることができると思います。（21歳・男）（四面に続く）

♥ 第十五回パンタナール一日特別研修会のご案内

お待たせしました。左記の要領でパンタナール一日特別研修会(ワンデイセミナー)を開催いたします。菊花咲く爽やかな秋の一日に、ご家族や知人を誘って、人と自然とを考えるととてもよい機会です。

日時 平成二九年十一月四日(土) 午前十時より受付、十時二〇分開始、午後五時終了予定。

会場 大山街道ふるさと館 二階イベントホール

神奈川県川崎市高津区溝口三丁目十三三三

参加費 二〇〇〇円(昼食つき)

参加を希望される方は、十月三十一日までに、メールかFaxで次の項目を下記事務局宛てお送りください。①氏名②フリガナ③性別④年齢⑤電話番号⑥Fax⑦メール⑧住所⑨紹介者⑩紹介者連絡先⑪備考(参加申込用紙が便利です。ご連絡は事務局へ)

主催 一般社団法人 南北米福地開発協会

共催 NPO法人 地球の緑を守る会

プログラム(予定)

●「レダにおける理想郷建設」講師・柴沼邦彦「当法人理事」●「地球環境問題と森づくり」講師・高津啓洋「NPO代表」●「体験報告①」佐野道准「現地法人理事、当会発足時よりレダ基地とアスンシオン事務局で重要な業務を担当。企画力・行動力の人。」●「体験報告②」島田賢二「青年局長、本年の第17回青年奉仕隊キャプテンとして活躍する傍ら、多くの貴重な記録を綿密に作成しました。」



佐野理事



島田さん

(感想文つづき) ●南米パラグアイの自然を見て、日本にはない自然、今まで見たことのないような大自然を見て、地球の美しさを感じることができました。オリンポの子供たちはとてもやさしく、愛に溢れている子ばかりで、はじめはゴミ箱の設置などでさびり気味な子も、接してみると心はやさしく、心の壁を作ってはいけないのだなと感じることができ、それからはその子に対して信頼感がとても強くなりました。(23歳・女) ●このオリンポの人たちは、人として何が大切なのか?その大切なものを持っていると感じました。それは「愛」です。人と人の繋がりを大切にする愛情をオリンポの人たちは持っています。私自身、その愛情にふれた瞬間、何か自分の心が満たされて行くような、この人たちをより愛して行きたいという思いが心から溢れてきました。(23歳・男) ●チームを組んでゴミ箱にシールを貼りました。自分のチームメイトは全員女子で最初戸惑いましたけど、分かる単語をとりあえず連呼して見たり、効果音やリアクションで場を盛り上げようと必死でした。しっかりと盛り上がってよかった。そこから一気に糸の絡まりが解け、心を開くようになりました。(21歳・男) ●少し心配性でめんどくさがりな部分がある私ですが、ここに来てから小さいことはあまり気にしなくなり、臨機応変に動くことができたと思います。愛するって何だろうと、日本にいた時すごく悩みました。こんな自分でいいのか、こんな自分が愛せるのか、愛されているのかと色々思っていました。ここでは無条件に与えてくれる姉妹が多く、満たされ、愛する楽しさも知りました。(24歳・女) ●今回初めて青年奉仕隊に参加し、前半で一番印象に残ったことは、「オリンポに住みたい!」と思ったことです。(男) ●愛を表現することがとても難しく感じました。しかし勇気を出して声をかけました。するとさつきまでは私の周りには人がいなかったのに、急に多くの少年少女が集まって来てくれました。それからは本当に楽しく一緒に歌ったり、ダンスを見せたりして盛り上がりました。(22歳・男) ●オリンポの町までバスで移動しながら、偉大な環境を神様が創造してくださったと思いました。大自然を見て、人間が手も足もつけない本然の世界が残っているこの目で見て、日本では感じることで残った神様の愛を感じることができ、この素晴らしい自然の姿を、みんなに必ず見てもらいたいと思いました。インディヘナの子供たちに会いに行きたときは、ずっと私たちが来るのを待っていたんだと感じました。(21歳・女)

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

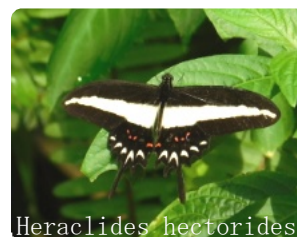
00290-5-113072

加入者名: シヤ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



Heraclides hectorides

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。